

# 大崎花里崎 エビス神社

# 上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課  
上西集落支援員

馬場 信一 編集  
連絡先090-9579-3953  
上西校区長 責任発行

かつて、花里崎にエビス神社があると知り、地元の方に紹介されて訪ねたことがある。驚いた。鳥居をくぐって社殿に着くのかと思いきや、実に素朴な作りである。人工物は使わずに珊瑚石や自然石で形作られている。大崎のエビス神社も本体がコンクリートだが、屋根の部分は大珊瑚石である。今回は、自然物を生かした素朴なエビス神社を取り上げる。



大崎エビス神社

県道581号線を大崎入り口から約300メートルほど進み、左に折れる小道を下る。

下る道は見逃すのではないかとと思われるほどの注意深さが必要である。急な下り・急カーブもあるので、運転を誤ると大変である。

下り終えると大崎漁港と東シナ海を一望に見渡せる。

大崎エビス神社から大崎漁港を望む→



昔はエビス様の六月灯とよばれる祭だった。大崎の漁民が組織する小組合でエビス神社の周りを掃除したあとに、獲れた魚の刺身と煮つけ、焼酎で、今年一年の豊漁と漁の安全を祈願する。組合員の減少とコロナ禍の影響で行事が簡素化され、名称もエビス祭といわれるようになった。この港で、第八大成丸の船祝いが行われたことも記憶に新しい。



←第八大成丸  
の船祝い  
2024(令6)年  
8月18日(木)



花里崎の港を長瀬漁港と呼ぶ。5年前、このエビス神社に初めて案内されたとき、どこにあるのか辺りを見回しても見あたらない。高さ3メートルほどの崖（左写真）をよじ登って、ようやく目指す神社が姿を現すのである。そこから眺める景色は実に素晴らしい。

素朴な神社である。（下写真）私が初めて目にしてから少なくとも5年経つが、風雨にさらされても同じこの体勢のままである。縦に置かれている二本の砂岩がおそらく鳥居を模したものであろう。一本は折れてはいるが交換することなく折れたまま祀られているのも愛おしい。

毎年五月のしおまつり夕祭で集落長がここを参拝する。伊勢神社宮司からもらい受けたお札を朝早くに誰の目にもつかぬうちに沖に流す。そして塩・米・大豆・焼酎を供える。（右下写真）大崎と花里崎の漁業組合が合併したため、大崎の役員がエビス祭の日には花里崎に参拝に来る。現在、花里崎には漁業の小組合員がいないからである。



↑花里崎エビス神社から長瀬漁港を望む



花里崎エビス神社

大崎・花里崎のエビス神社は、いずれも西向きで港を見守るように祀られている。漁を終えた漁師たちの背に夕日が照らし、明日の豊漁と安全を祈っていることだろう。

＜取材協力；平原月人さん（大崎）長野正育さん（花里崎）花里涼司さん（花里崎）＞